

| | | | | | |
|---------------|----------------|------|----------------------|----|-----|
| 施策番号 4-1-1 | 施策名 学校教育の充実 | 基本目標 | 個性的で心豊かな人と文化を育むまちづくり | | |
| | | 政策名 | 豊かな心を育む人づくりの推進 | | |
| 主管課 施策関係課 | 学校教育課 | 課長名 | 弦巻 潔 | 内線 | 511 |
| | | | | | |

1. 施策の方針と成果指標

| 施策の方針 | | 対象 | 意図 | | | | | 結果 | |
|--|--|------|----------------------------------|------|------|------|----------|--------------------|--|
| 信頼される学校づくりを推進し、新しい時代を自ら切り拓くことができる心豊かな人づくりを目指します。 | | 児童生徒 | 確かな学力、豊かな心と健やかな体を育み、「生きる力」を身に付ける | | | | | 児童生徒が社会に出たときに自立できる | |
| 成果指標 | 説明 | 単位 | 23年度(策定時) | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度(目標) | | |
| ① 「学校生活や授業が楽しい」と思う児童生徒の割合 | 学校評価 | % | 89.3 | 90.5 | 88.5 | 90.0 | 90.0 | | |
| ② 「授業が子どもにとって楽しく分かるように進められている」と思う保護者の割合 | 学校評価 | % | 83.6 | 86.6 | 85.3 | 85.0 | 85.0 | | |
| ③ 毎日朝食を摂っている児童生徒の割合 | 生活習慣・学習環境等状況調査 | % | 88.5 | 84.2 | 88.4 | 90.0 | 90.0 | | |
| 成果指標設定の考え方 | ①及び②については、各学校の学校評価項目から、類似又は関連する評価項目を参考にするとともに、前期実施計画の実績なども考慮し目標値を設定した。 ③については、前期実施計画では食育の推進を成果指標としていたが、児童生徒の健やかな体の育成からも本施策の成果指標とし、①及び②同様、前期実施計画の実績なども考慮し目標値を設定した。 | | | | | | | | |

2. 施策の事業費

| | 27年度決算 | 28年度決算 |
|-----------|---------|---------|
| 施策事業費(千円) | 839,303 | 934,605 |
| 人工数(業務量) | 6,3950 | 6,1732 |

3. 施策の達成状況

| (1) 施策の達成度とその考察 | | | |
|------------------------------|---|--------------------------|--|
| ①平成28年度の成果評価(前年度比較) | <input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した | 想定される理由 | 毎日朝食を摂っている児童生徒の割合が回復したことは、栄養教諭による食育指導等の成果の現れと考えられ、他の2項目は前年度を下回ったが、総体としては「成果は変わらなかった」とした。 |
| ②平成30年度の目標値達成見込み | <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい | 根拠(理由) | 今まで、毎日朝食を摂っている児童生徒の割合は目標値に達していないが、栄養教諭による食育指導の継続実施や、保護者に食育への理解を深めてもらうことにより、目標達成は可能と考える。 |
| (2) 施策の成果評価に対する平成28年度事務事業の総括 | | | |
| ①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業 | (小学校・中学校)施設維持管理事業 児童生徒支援事業 (小学校・中学校)教材・教具整備事業 学校給食管理運営事業 | ②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業 | |
| ③事務事業全体の振り返り(総括) | ・学校施設、教員住宅及び給食センター施設は、年次計画に基づき工事、修繕、備品購入を行い、児童生徒に危険を及ぼす可能性がある場合は、緊急修繕等により対応をした。 ・特別な配慮や支援を必要とする児童生徒に対しては、各学校の実態を踏まえた上で教育活動指導助手や学校支援員を配置し、個に応じた学習支援を行い、教育環境の整備に努めた。また、小学校3・4年生の35人以下学級編制のため、芽室小学校及び芽室西小学校へ教育活動指導助手を配置した。 ・芽室産食材を活用した「めむろまるごと給食」実施の際は、食材となった農畜産物を紹介した「しおり」を全児童生徒に配付した。また、アレルギー対応食の提供や安全・安心を心掛けたおいしい学校給食の提供に努めた。 | | |

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

| | | | | | |
|------|---|---|---|---|---|
| | A | B | C | D | E |
| 進捗結果 | | | ○ | | |

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

※該当に○印

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

| | |
|-----------------------------------|---|
| 施策を取り巻く状況と今後の予測 | <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に避難施設となる学校施設は、防災機能の整備や避難施設としての機能充実を図る必要がある。 ・平成32年度からの小学校中学年への外国語活動導入、小学校高学年への英語教科化に向けた対応を検討する必要がある。 |
| この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？ | <ul style="list-style-type: none"> ・大学等奨学金貸付に関して、連帯保証人の資格要件(町内在住2人)を、町外居住者まで範囲を広げてほしい。また、奨学金償還の補助又は免除の制度を整備してほしい。 ・生活習慣病検査について、保護者への十分な情報提供と養護教諭・町保健師・教育委員会が課題の共有を図るようとの指摘があった。 |

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たにに取り組むべき課題)

| |
|---|
| 課題①長期休業中の学習支援(中学生) 「学習の場の確保」と「基礎学力の定着」を目的に、長期休業中に指導者が常駐する自習室を開設する。 課題②生活習慣病検査の実施 生活習慣病検査の検査方法や検査結果の見方など保護者への配付資料に工夫を凝らす必要がある。 また、町広報誌を活用し、児童生徒の生活習慣病及び生活習慣病検査について、広くお知らせする。 課題③特別支援教育の充実 各学校の実態を把握し、必要に応じて教育活動指導助手や学校支援員の配置をする。 課題④大学等奨学金貸付制度の改正 連帯保証人の町内在住要件の廃止及び卒業後芽室町に戻り、一定期間居住した場合の償還免除制度の整備。(平成29年度分から施行。) |
|---|

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

| | | | | | | | |
|-------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 評価 | ●食育に関する取組、奨学金貸付の改正等、後期実施計画策定時と比較して前進したと言える。 | | A | B | C | D | E |
| | | 進捗結果 | | | ○ | | |
| 今後の取組に対する意見 | ●学校教育に関する事業は幅広いが、現在は1施策で評価されている。次期総合計画では、ある程度、細分化することも検討した方が良い。 | A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した | | | | | |

7. 総合計画審議会(外部評価)

| | | | | | | | |
|-------------|--|---|---|---|---|---|---|
| 評価 | ●奨学金貸付制度の改正や支援員・指導助手の配置など、総体的に施策は前進したと評価する。 | | A | B | C | D | E |
| | | 進捗結果 | | | ○ | | |
| 今後の取組に対する意見 | <ul style="list-style-type: none"> ●生活習慣病検査時のわかりやすい周知や不安解消のための工夫が必要。また、検査後に学校から支給される食事についてはコンビニのおにぎり聞いたが、食育・健康などの観点から配慮が必要ではないか。 ●めむろまるごと給食は良い取組なので、今後も生産者との交流も持ちながら継続してほしい。取組をきっかけにして、さらなる芽室産の食材を使った給食の推進が求められる。 ●指標の数値が策定時から目標値までで差が無い場合、次期計画策定時には見直しを検討してはどうか。 | A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した | | | | | |